

事業説明シート 3 施設改良事業(継続)

部局課所 水道局総務課
 総合計画 1章 環境と調和し快適に暮らす魅力あるまち
 6節 上・下水道の整備
 1項 上水道の整備
重点テーマ 2 環境と調和したまちづくりの推進

【 事業の目的】 災害に強くより安全な施設づくりをめざして、基幹施設である取水、浄水、送水、配水施設の整備を行う。 1日最大配水量の12時間分の水量確保を目標に配水池の整備を行うことにより、平成15年度末には、現在の9.4時間分から11.3時間分まで配水池容量の増加を図る。	【 事業の対象】 上水道給水区域内全域
【 全体事業概要】 手形山配水池の増設を行うほか、駅東幹線など主要な配水幹線の整備や、浄水場の施設更新を計画的に実施する。	【 新年度事業概要】 駅東幹線 600 L = 110m 宝川水管橋築造 手形山配水池築造その3 仁井田浄水場中央監視設備更新その2 他
【 備考】 配水池容量の時間換算比は、計画一日最大給水量(24時間分)に対してどれだけの水を貯留できるか、時間単位で示したもの。全国平均は10.3時間分で、国の基準は12時間分	【 国県施策名】 緊急時給水拠点確保事業 【 国補助率】 1 / 3 【 県補助率】 【 起債充当率】 90

事業評価シート 3 施設改良事業(継続)

【 事業成果(アウトカム)指標】					
指標	配水池容量の時間換算比				
選定理由	当該事業の成果として機能が向上するものとして、災害時における確保水量があり、計画一日最大配水量の12時間分を目標に事業を進めているため。				
計算・推計方法	配水池有効容量/計画一日最大配水量×24時間 計画一日最大配水量は水道事業基本計画で規定				
留意事項					
指標の推移	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
目標	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
実績	9.4	9.4	9.4	11.3	11.3

【 事業成果指標・備考】

【 事業手法・推進体制等見直しの余地(コスト削減、費用対効果向上)】
 無 有

【 民間事業との競合】
 無 有

【 住民ニーズ、行政需要の動向】
 増加傾向 不変 減少傾向
 水需要の伸びは鈍化傾向にあるが、利用者ニーズは、災害時も含め常に安定した水の供給を求める方向に高度化する傾向にある。

【 市が今行う必要性】

○ 無 ● 有	国では災害に強い水道をめざして計画一日最大配水量の12時間分の貯水量を目標値にしているが、本市は平成13年度現在9.4時間分である。なお、平成11年度の全国平均は10.3時間分。
---------	---

【 事業外部の条件整備(関連事業等)】	
○ 問題無 ● 要配慮	浄水場等の基幹施設の整備計画は、広域化により計画が変更になる。

18水道 3

事業説明シート 4 給水区域拡張事業(継続)

部局課所 水道局総務課
 総合計画 1章 環境と調和し快適に暮らす魅力あるまち
 6節 上・下水道の整備
 1項 上水道の整備
重点テーマ 2 環境と調和したまちづくりの推進

【 事業の目的】 平成14年度末を目標に、太平・下北手寒川地区に配水管を整備することにより、昭和町による上水道供給を受けている区域(金足の一部)を除く行政区域内人口のほぼ100%が給水区域に含まれることになる。	【 事業の対象】 太平及び下北手寒川地区 約2,500人
【 全体事業概要】 太平及び下北手寒川地区の住民(現在簡易水道等)から提出されていた陳情要望に基づいて、平成11年度から5ヶ年計画で水道整備を行う。	【 新年度事業概要】 太平地区 舗装工事 A = 2,000m ²
【 備考】 平成12年8月～9月に太平黒沢地区で簡易水道の水源である地下水が枯渇したことから、給水車の派遣を行っている。	【 国県施策名】 統合簡易水道事業 【 国補助率】 1 / 3 【 県補助率】 【 起債充当率】 90

事業評価シート 4 給水区域拡張事業(継続)

【 事業成果(アウトカム)指標】					
指標	事業対象地域における上水道普及率				
選定理由	上水道の普及を目的とした事業であるため				
計算・推計方法	計画給水人口(2,550人)に対する上水道加入人口の割合				
留意事項					
指標の推移	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
目標	100	100	100		
実績	39.6	86.2	100		

【 事業成果指標・備考】

【 事業手法・推進体制等見直しの余地(コスト削減、費用対効果向上)】
 無 有

【 民間事業との競合】
 無 有

【 住民ニーズ、行政需要の動向】
 増加傾向 不変 減少傾向

【 市が今行う必要性】
 無 有

【 事業外部の条件整備(関連事業等)】
 問題無 要配慮

事業説明シート 5 玉川ダム余裕水の広域的活用(継続)

部局課所 水道局総務課
 総合計画 1章 環境と調和し快適に暮らす魅力あるまち
 6節 上・下水道の整備
 1項 上水道の整備
重点テーマ 2 環境と調和したまちづくりの推進

【 事業の目的】 本市は玉川ダムに取水量ベースで111,600m ³ /日の水源を確保しているが、人口の伸び悩みにより余裕が生じたことから、水の有効活用を広域的に検討する。	【 事業の対象】 秋田市、雄和町、天王町、昭和町、飯田川町、井川町、八郎潟町、五城目町、大潟村
【 全体事業概要】	【 新年度事業概要】
【 備考】 平成12年度に対象市町村が共同で広域的な余裕水活用について調査業務委託を行い、13年3月に報告書を作成した。14年の4月には対象市町村長が一堂に会し、国や県に対し補助を要望するとともに、各町村の水需要、送水ルートなどをさらに詳細に検討していくことを協議した。 なお、現在本市が確保する水源水量は、一日あたり 給水量ベース (取水量ベース) 玉川ダム分 98,100m ³ (111,600m ³) 雄物川自流分 128,100m ³ (144,500m ³) 合計 226,200m ³ (256,100m ³) となっている。同報告書によれば、本市の水需要がピークを迎える平成24年度においても、給水量ベースで一日あたり53,700m ³ の余裕水が発生すると見込まれる。 ちなみに、現在は1日あたり平均で115,000m ³ を給水している(水源は、125,000m ³ を雄物川から取水)。	【 国県施策名】 【 国補助率】 【 県補助率】 【 起債充当率】

事業評価シート 5 玉川ダム余裕水の広域的活用(継続)

【 事業成果(アウトカム)指標】					
指標					
選定理由					
計算・推計方法					
留意事項					
指標の推移	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
目標					
実績					

【 事業成果指標・備考】
 実際の活用方法が提案された段階で、評価対象とする。

【 事業手法・推進体制等見直しの余地(コスト削減、費用対効果向上)】
 無 有

【 民間事業との競合】
 無 有

【 住民ニーズ、行政需要の動向】
 増加傾向 不変 減少傾向

【市が今行う必要性】	
<input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	

【事業外部の条件整備(関連事業等)】	
<input type="radio"/> 問題無 <input type="radio"/> 要配慮	

18水道 5